

歌ノレ노래 159

『れんぎょう娘』(ケナリ娘)

山根 俊郎

★歌手 崔淑子の死去

1月9日AM11:00からKBS 2ラジオ「テジナショーショーショー」を聴いていたらテジナが「亡くなった崔淑子(チェ・スクチャ 최숙자)さんの冥福をお祈りします」と言うので驚きPCで訃報を探した。韓国メディアは前日の1月8日に報じている。

1月8日16:34 ソウル=聯合ニュース イ・ウンギョン記者‘涙の延坪島’を歌った歌手崔淑子さん米国で持病のため別世(死去)1960年代‘涙の延坪島’を歌った歌手 崔淑子さんが去る6日午前2時(以下現地時間)米国で持病のため別世(死去)したと遺族が8日明らかにした。享年71歳。遺族は聯合ニュースとの国際電話で「故人は自宅がある米国カリフォルニア州サクラメント市の病院で6日死亡した。平素から高血圧を患っており先月

(2011年12月)25日に脳卒中で病院に入院していた」と伝えた。故人は1950年代末から1960年代まで‘涙の延坪島’‘れんぎょう娘’をはじめ金セレナと歌った‘カプトリとカプスニ’などをヒットさせて広く愛された。1977年に夫アン・スンファ

(안승화)さんと米国に移民して歌手活動を中断した。大衆歌謡評論家のパク・ソンソ(박성서)は8日 故人は1950-60年代に庶民の哀歓を慰める歌を歌い、当時最高のトロット歌手であった。1976年李美子(이·미자)とデュエットで吹き込んだ‘水安堡女人’を最後に米国に移民した、と紹介した。遺族は夫と1男3女。発引(出棺)は現地で15日



午前11時。

★歌手 崔淑子の経歴

崔淑子の経歴を見ていきたい。朴燦鎬著・李俊熙編『韓国歌謡史2』(2009年,韓国 図書出版ミジブックス発行) P322-324に次のような記述がある。

〈れんぎょう娘〉(ケナリ娘)の崔淑子

崔淑子は、1940年ソウル生まれであり1957年オアシスレコードからデビューした後、1958年中央放送局専属歌手になり、1959年には美都波(ミドパ)レコードの専属歌手になった。彼女の出世作は、群小音盤会社であった新星レコードから販売された〈れんぎょう娘〉(ケナリ娘·개나리 처녀)である。歌詞(千枝葉詞、金華榮曲) 以下省略



この歌は、春の夕方にれんぎょう(ケナリ)が咲く井戸端に水を汲みに来た娘が、夕日を眺めてソウルに行った恋人の帰りを待ちわびる乙女心を歌っている。歌詞の‘二八青春’は、28歳ではない。2×8=16歳の青春である。民謡の『二八青春歌』から引用か? このレコードは、「1958年発表」と言われているが、「1959年」かも知れない。(全般的に1950年代の大衆歌謡の発表年はデタラメ)このレコードは、10インチLP盤(A面4曲、B面4曲、合計8曲)である。ある資料に「1958年夏、公報室レコード製作所で最初の国産10インチLP音盤製作」とある。それまでのSP盤(表裏で2曲)に換わって1958年末~1963年まで普及した。64年からLP盤は12曲(A面6曲、B面6曲、合計12曲)に収録曲が増えた。たまに10曲、11曲の場合もある。

『れんぎょう娘』 (ケナリ娘)

개나리 처녀

권지영 작사
김화영 작곡
최숙자 노래

Trot

I. れんぎょうが咲く井戸端に 愛を探すケネリ娘
ひばりがさえずり 二八青春の春が行く
オホイヤ〜 オルシグ 熱い胸に憎い春風
垂れた柳の枝をつかんで ため息をついても
愛しい人は帰ってこない 西の山に日が沈む

II. 夕日を見上げて ため息をつくケナリ娘
ほととぎすがさえずり 顔に憂いが浮かぶ
オホイヤ〜 オルシグ 無情の夕日よ何か言つて
城皇堂の峠を越えて 牛をひく牧童よ
帰る道が遠いなら 私の懷に休んで行って (続く)